

第9回 仙台医療介護連携の会

ご報告

開催日時:平成27年9月1日(火)19:00~21:00

会場:仙台サンプラザホテル

内容

【情報提供】

「仙台医療介護連携の会でのこれまでの話し合いのまとめ」
 「市民フォーラムについて」 事務局
 「在宅ケア連絡会」について 市高齢企画課 下山田 健二様
 「地域包括ケア体制構築に向けたアクションプランについて」
 東北大学大学院歯学研究科 小坂 健様
 【グループ討議】
 「行政への提言内容について」

出席委員 18名(仙台市圏域を中心に構成)

市医師会1、市歯科医師会1、市薬剤師会2、県看護協会1
 県訪看連絡協議会1、県ケアマネジャー協会1、市地域包括協議
 会1、市老人福祉施設協議会2、県認知症グループホーム協議会
 1、仙台介護サービスネットワーク1、県病院協会3、学識経験者2
オブザーバー6名 仙台市:障害者支援課2、介護予防推進室2、
 介護保険課1、高齢企画課1



行政への提言内容について

※()内はグループ名

各団体が集まる場の継続

まだ各団体の連携内容が明確ではない。団体内で課題を共有する連絡網やそのような動きもない。解決しようという動きに継げることが必要ではないか。(B)

各団体が顔を合わせて話し合いができる場ができたばかり。このような会議の場を続けてほしい。(B)

多職種連携のための研修会の開催

位置づけとして、在宅ケア連絡会は、仙台市の「地域ケア会議」を支える団体だと思う。(C)

2・3包括ごとに三師会のようなチームを作って、仕組みを支えるような方法も必要なのではないか。(C)

病院にも地域の実情を知ってもらうことが必要。また、地域から病院への取り組みがもっと促進されなければならない。(C)

人材育成支援

建物だけがどんどん建設されていて、人材が不足している。適正な数の配置を望む。(B)

介護職が離職しないための工夫を各施設も取っているが、採用もままならない。実際は経営に必死。モチベーションアップのための方策が必要。(B)

資格を取るための費用などに助成をかけてもらいたい。(B)

地域包括と行政がもっと深く関わり、人材を育成する必要がある。(A)

同職種、多職種相互で見学実習でもいので、人材交流を行い、意識を変えていく取り組みが必要なのではないか。(A)

地域づくり

これからは、フォーマル、インフォーマル資源の両方が見えるように「見える化」されなければいけないと思う。行政には、その取り組みを行ってほしい。(C)

政策立案について

人口規模、地域の特徴に応じた適正な人員配置、施設数などを把握して、効率的な運用を促していかなければならない。もっと元気な高齢者との協同を考えてもらいたい。(C)

分散せず地域に集約されるように作っていかなければならないのではないかと。(B)

行政職員の異動は仕方がない。しかし、専門官を置くような措置を考えてもらいたい。今回の仙台市の人事(健康局長、高齢保険部長退職、その他関係部所長の異動など一気にあつた)で、また一から考えなければならない。(B)

縦割りの対応が困る。もっと横のつながりを持って、対応してほしい。(C)

普及啓発活動の継続

市民に対して、SOSを出せる窓口の周知が必要。(A)

「病院や施設が決めて安心ではない」という、幻想を抱かせない啓発活動が必要だ。(A)

次回、第10回が最終回となります。最終回は、各団体から寄せられた内容を確認する予定です。

「最期までお家で生活 市民フォーラム」ご報告

参加者646名!



第1部 講演

展示コーナー



ステージ発表翼合唱団様

第2部 在宅医療のQ&A

